

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	スナック（経営者）	来客数の動き	・例年、少し落ち込む連休明けは、気になるほど落ちこんではいない。客がいくらか元気になっているので、景気は上向いている。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・契約高が前年同月比で15%上昇している。
	やや良く なっている	スーパー（店長）	販売量の動き	・前年比で来客数が120%、売上も115%以上と伸びており、数店舗あるチェーンのほとんどの店が、前年をクリアしている。
		スーパー（経営企画担当）	販売量の動き	・1人当たりの買上点数が、約3%上昇している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・水族館などのオープンにより、客単価は低いものの、来客数が伸びている。
		一般レストラン（店長）	競争相手の様子	・以前は、どの競合店でも単価の安いメニュー主体であったが、最近では、付加価値の付いた商品をメインに打ち出している競争相手が目につくようになってきている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・近隣に建築中の大工場に来る客が増加しており、やや良くなっている。
	変わらない	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・客の注文が増加してきており、やや良くなっている。
		商店街（代表者）	単価の動き	・千円均一等の商品は少々動いているが、単価の高い商品の動きは鈍い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・大型店、専門店に客が流れている状況が続いている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・郊外にある自社の他店舗に客が流れている。来客数は土曜日が多く、日曜日が少ないという状況である。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・高級婦人服の動向は、依然として芳しくないが、一般的な婦人服については、活発になってきており、商品の動きにやや力強さがみえ始めている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数は少しずつ増加しているが、それに売上が付随してこない。
		スーパー（経営者）	競争相手の様子	・競合店の閉鎖により、売上、来客数ともに5%増加している店舗もあるが、従来の店舗では、依然として厳しい商戦が続いている。競合店では、毎日がチラシ特売期間である。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・客は、余計な物は絶対に買わず、計画的な買物に徹しているため、販売量は多くない。
スーパー（統括）		来客数の動き	・依然として、来客数は105~107%程度の伸びをみせており、客単価、1点単価は97~98%台で推移している。食品は一時下げ止まった感があったが、継続して2、3%ずつダウンする傾向が続いている。	
衣料品専門店（経営者）		単価の動き	・客は、単価の安い物しか買わない。	
衣料品専門店（店長）		単価の動き	・母の日のプレゼント購入客が減少し、コーディネートして、まとめ買いをする客は極端に減少している。	
家電量販店（店長）		単価の動き	・来客数は前年並みである。ワールドカップ需要を加味すると、もう少し単価が上昇しても良いが、売上は前年並みである。	
住関連専門店（店長）		お客様の様子	・来客数は増加しているが、客は無駄な物は買わず、必要最小限な物だけ買物をしている。	
その他専門店 〔携帯電話〕 （店長）	単価の動き	・価格の安い、0円に近い機種が売れており、値が付くと動きが鈍い。		
高級レストラン（店長）	単価の動き	・客は相変わらずランチ等の低価格商品に集中しており、ディナーや単価の高い商品は、依然として低調である。		
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・コンベンションなどで忙しい時期もあるが、暇な時との差が激しい。依然として、市内は不景気で、空き店舗が多い。		
旅行代理店（従業員）	単価の動き	・市場が低価格路線となり、安値競争が激化している。売上は対前年比で、約20%の落ち込みとなり、小人数客の売上も、価格競合等により利益幅が圧縮している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光名所（職員）	お客様の様子	・連休の来客数は例年以上であったが、レストラン、ホテル等の利用は少ない。
		遊園地（職員）	来客数の動き	・P R券と割引券の利用者は増加しているが、団体客では前年割れの状況が続いている。
		ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・予約申込時の値段交渉が多く、以前にも増して、薄利多売を強いられている。
		ゴルフ場（支配人）	競争相手の様子	・周辺コースの料金値引きが激しくなっている。そのため、来場者数は確保できても、営業収益に結びつかない。
		競輪場（職員）	来客数の動き	・大型連休には、入場者、売上高が多少増加しているが、前月と変わらず、購入単価も上昇していない。
		設計事務所（所長）	販売量の動き	・低値安定であるが、これまでと変わらない程度の販売量はある。ある程度のまとまった物件については、情報すらない。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・住宅用地の広告に対し、問い合わせが少なく、成約に結びつかない。回復のきっかけが全くみられない。
	やや悪くなっている	一般小売店〔金物〕（経営者）	競争相手の様子	・近隣に3つ目となる大型ホームセンターの出店計画があり、更なる過当競争によって苦戦する。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・買上点数、来客数が前年比で5%減少しており、客単価も低くなっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べ、来客数が6%減少し、客単価は9%上昇している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売台数は依然として前年比70%台で、回復してこない。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・宿泊単価は平常の2割近く下がっている。宴会の客単価は5千円程度で、以前と比べると6～8千円のものがない。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊、レストランの来客数が減少している。特に、レストランが良くない。
		タクシー運転手	それ以外	・街で目印にしていたほどの老舗が、5月に入り、3軒倒産している。レストラン、家具店、パチンコ店と業種も様々である。
		タクシー（経営者）	お客様の様子	・スナック等の夜の店が暇なため、タクシーの利用客が少なくなり、収入が減少している。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・第3世代携帯電話サービスの本格的スタートにもかかわらず、新規契約数は前年水準を大幅に下回っている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（事務長）	お客様の様子	・フロントガラスのひび割れ在庫車では、交換に中古品を希望されている。客は、小さな車体の傷では修理しなくなっている。
	悪くなっている	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・婦人服の来客数は前年比でほぼ半減、化粧品の来客数も10%減少で、全体では10%強の減少となっている。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・販売量の他に、来客数が極端に減少し、これ以上悪くなれば、会社がどうにかなりそうなほど大変である。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・利用客、来客数が激減している。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・家族、少人数のグループ旅行は発生しているが、団体、企業の慰安旅行が相変わらず苦しい。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・ワールドカップ及びオリジナルグッズのプロモーション等の販売活動により、飲料水メーカー関係の配送が増加している。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・不景気で今まで我慢していた客から、車や家電製品、特にパソコン等高額商品の買い増しの話が始めている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・経営環境の受け止め方に対する深刻感が薄れつつあり、中断ないしはテンポを緩めていた新事業展開などを再開、加速し始めている。一方、依然として業績不振の企業もあり、一段と二極化が進行している。
	変わらない	金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・得意先の仕事量、引き合い、見積がともに少なく、5月に入り、価格が低下する傾向にある。見通しが非常に暗く、良くなる要素のない状況は変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・景気の悪い状態が続いている。半導体の機械関係で一部、受注が出てきたとの話を聞くが、全体では低迷状態が続いている。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・引き合いも若干多くなってきたが、値下げの要求が厳しく、納期も短いので苦労している。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	取引先の様子	・国際宝飾展の入場者数は前年より多く、客は何か新しい物を探そうとする意欲はあるので、きっかけ次第で回復するとの期待もある。
		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・IT関連、精密部品製造の一部で、受注増加、回復の兆しがみられ始めている。ただし、単価の引下げ等で利益率が低く、厳しい状況が続いている。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	取引先の様子	・関連の観光会社における1～5月の売上は20%のマイナスとなり、利益率も2%強落ち込んでいる。全体のチラシの出稿量は、14か月ぶりに前年並みを回復したが、状況は決して楽観できない。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	取引先の様子	・3月期の決算で業績が悪化した客は、総じて情報化投資を減退させている。この1、2か月の状況は、特に変わっていない。
		やや悪くなっている	化学工業（総務担当）	取引先の様子
建設業（経営者）	受注量や販売量の動き		・新年度になったが、官民ともに発注はほとんどない。	
その他サービス業〔放送〕（営業担当）	受注量や販売量の動き		・新年度の年間契約受注が、値引競争や先行き不透明感から、10%程度落ち込んでいる。新規のスポットコマースの引き合いが出てきているが、全体的にみるとマイナス分を埋めきれない。	
悪くなっている	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・海外生産がますます進み、単価も一層引き下げられている。	
	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・ゴルフ場工事で、施工を自分達で行い、外部に発注しない事例が増加している。	
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	雇用形態の様子	・製造関係のリストラが依然として続いており、賃金等の引き上げも困難だと聞いている。5月に持ち直して、稼動の高まっているように見える生産関係でも、求人内容により求職者が厳しく選別される状況である。
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・求人依頼数は、前年同月比で落ち込みが続いている。やや回復の兆しがみえているのは、極端にスキルの高い人間、特殊な資格所有者などがほとんどで、営業事務、一般事務の求人は皆無である。期間も短期、パート、季節要員などである。
		求人情報誌製作会社（経営者）	雇用形態の様子	・景気の先行きが不透明で、依然として求人は少ない。中途採用は正社員ではなく、パート、アルバイトで補っている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・管内大手電機メーカー及びグループ企業の大規模なリストラ策の実施により、当所管内だけでも、5月は400余名の離職者が発生している。非自発的離職者の求職者が激増する一方、製造業からの求人が減少しており、異業種への転換も困難なことから、求職活動の長期化等、雇用環境は厳しさを増している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規常用求人は、対前年比で25%減少しており、求人倍率は依然として低迷している。電気機器製造業においては、わずかではあるが、求人が始めている。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・製造業では一部明るい材料もあるが、派遣で対応し、正社員採用については慎重な姿勢を崩していない。サービス業では、依然としてパート、アルバイトが主流であり、建設業ではかなり悪い状況が続いている。周辺企業の求人は低迷が続いている。
学校〔短期大学〕（就職担当）	求人数の動き	・専門知識等を要する技術職に対する求人は根強いが、その他は依然として低調である。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（経営者） 職業安定所（職員）	周辺企業の様子 求人数の動き	・最近、周辺企業の倒産や手形の不渡り等が目立っている。 ・求人数は13%、求人数は17%の減少となっている。
	悪くなっている			